

科 目 名

教養講座 Cultural Program

2年 前期 1単位 選択 (ネット、ソフト、コンピュータ、応微、応生)
2年 後期 1単位 選択 (機械、ナノ、エコ建築、宇宙)

井芹 浩文・井上 薫

概 要

本学の建学精神は「体・徳・智」と表されている。健全な肉体に健全な精神が宿る。そのうえに健全な知識を身につける必要がある。この「智」を肉付けするのが教養 (Culture) である。教養とは単なる学殖・多識とは異なり、一定の文化理念を体得し、それによって個人が身に付けた創造的な理解力や知識のことである。

本講座は、人間としての教養を身に付けることは豊かな人生を送るために極めて重要であるということで昭和53年から開講されている。毎年、著名な識者を講師として学外から招き、毎週金曜日に実施している。講師は多種多様な分野から選ばれており、これら先生方の講話を通じて幅広い教養と広い視野を養い、ひいては人間性豊かな人材に育ててほしいという願いを込めて開講している。

学習目標

- 科学技術系・人文社会系などの分野を問わず幅広い視野を身に付ける。
- 人の話を聞くマナーを学ぶ。
- メモを取る習慣を身に付ける。必要な情報を選択し、記録する能力を養う。
- 講話への感想を書いてレポートとして毎回提出することによって表現力を養う。
- 講師の厳しい体験談をじっくり聞き、困難に正面から受け止める気概を培う。
- 講師の多様な話を聞いて、自分なりの判断力を身に付ける。
- 現代社会の抱える諸問題に目を開いてほしい。

授業計画

- | | |
|---------------------------------------|--|
| ① オリエンテーション | 井芹 浩文、井上 薫 |
| ② トップレベル目指す崇城大学 | 中山 峰男 (崇城大学学長) |
| ③ オラの愛する元気な日本 | ダニエル・カール (タレント) |
| ④ 核燃料サイクルと地層処分 (仮題) | 石島 洋二 (北海道大学名誉教授) |
| ⑤ カンボジアという国 | 金子 敦郎 (元大阪国際大学学長) |
| ⑥ 地域貢献の第一歩は社会参加から | 高橋 陽子 (日本フィランソロピー協会理事長) |
| ⑦ 学生研修 | |
| ⑧ さまよえる日本人 ～いかに人生を設計するか～ | 飯柴 政次 (弁護士、元警視庁捜査4課長) |
| ⑨ 人生・学問・宗教 | 清重 尚弘 (九州ルーテル学院大学学長) |
| ⑩ オバマ大統領の時代 ～これからの世界と日米関係～ | 菅 英輝 (西南女学院大学教授) |
| ⑪ 講談「仏陀とそのおんな弟子」 | 神田 陽子 (女流講談師・崇城大学客員教授) |
| ⑫ 日本から世界への発信 | 原 聰 (関西駐在大使、前駐ポルトガル大使) |
| ⑬ 歌は時代の鏡 | いで はく (作詞家) |
| ⑭ グローバル時代のモノづくり ～戦略的プラットフォーム思考の薦め～ | 中村 末廣 (崇城大学副学長) 後期分は9月初めに決定し、教務課の掲示板に掲示する。 |

評価方法

毎回提出されたレポートおよび出席状況を総合的に評定する。